

に因り、自由に通過し得べし。

義井舗の西方に、好良の一高地を見る。周圍土牆を遶らし、碑あり。又土中古瓦を出すと。是れ古の金庸城チンソウ、今は僅に其の迹を遺して、唯蟲聲の切々として歴史を私語するに似たる有るのみ。

白馬寺

乾淨村カンチンを経て白馬寺バイマに到る。寺あり以て名づく。寺は漢の明帝の創建に係り、初め鴻臚寺ホンルと稱せしが、一夜白馬出で、塔の周邊を繞る。故に改めて白馬寺と稱すとは碑文の示す所なり。佛閣は五殿より成りて、佛像の大彫刻頗る精緻を極む。寺有の田二百畝、住僧僅に四人のみ。

洛陽白馬寺、金身丈餘長、不知來何處、印度又西藏、

次驛を孫家庄と爲す。但し偃師より義井舗に到る迄は、地勢漸次に高まり、それより又漸次低下し、孫家庄に到る。此の地は多く綿花を栽え、土地開濶にして平坦砥の如し。十里堡を過ぎて唐家灣タンチャワンに到り、其の洛陽ロヤンに入りしは、午後五時、是日の行程約十里とす。

洛陽今昔の感

洛陽ロヤン（河南府）は河南省屈指の都會にして、河南省は之を中心とせる大平原なり。